

地球環境にやさしい駅

駅舎や車両基地建物などの各種鉄道建築物の建設において、地球温暖化対策をはじめとする地球環境改善への取組みを積極的に行っています。



九州新幹線
(博多・新八代間)
新玉名駅
「県産の木材を使用したホーム上家」



九州新幹線
(博多・新八代間)
熊本総合車両基地
「太陽熱温水器と自然風換気システム」屋上緑化などの取組み

国産木材等の使用

地元木材の活用は、二酸化炭素の固定化とともに移動エネルギーの節約となり、環境にやさしく、木材を駅舎の内装に用い、優しく温かみのある空間とします。新玉名駅ではくまもと県産材振興会賞を受けました。

自然エネルギーの利用

太陽光や太陽熱、動力に頼らない自然風による換気など、自然エネルギーの積極的な活用を検討し、駅舎などの建設において適宜導入しています。

屋上や敷地内の緑化

建物の屋上や敷地内を植栽等で緑化することにより、ヒートアイランド現象を抑制し、地球温暖化を防止します。

廃材等を利用した製品の使用

石、レンガ、陶器、瓦など工事現場の残材を利用して作られた、タイルを使用するなど、ゴミを減らして資源を有効に利用するという観点からエコな製品を使用しています。



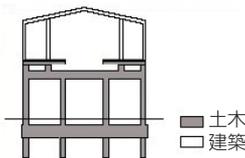
成田新高速鉄道線
成田湯川駅
「“エコ平板”タイルの使用」

経済性とデザイン性が両立する駅

工期短縮やコスト縮減、デザインの自由度の向上などを目的とし、「土木構造と建築構造が一体」となった「ハイブリッド構造(特許取得済)」を開発、様々な路線で採用しています。

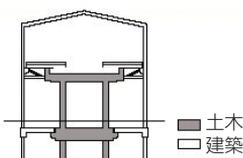
□従来の4柱式高架橋を2柱式とし、両側の柱と上家を一体化することで、駅コンコースやエスカレーター、エレベーターなどの駅設備を、より自由にレイアウトすることが可能となります。

従来構造



■ 土木
□ 建築

ハイブリッド構造



■ 土木
□ 建築

従来構造とハイブリッド構造の概念図



九州新幹線(博多・新八代間) 新玉名駅
「建築の外装によって土木躯体がすっぽりと覆われている」